



2012. 12

一般社団法人 原子力安全推進協会

“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室” No. 5 〈思い込み〉

タイトル：その「常識」は正しい？

【事例】

運転員は、パトロール中に特殊装置についている配管から水もれを発見したため、バルブを増し締めしようとしてしました。彼は過去の操作経験から、どんなバルブでも時計回しで閉まると思い込んでおり、このバルブも時計回しにすればよいと考えました。

しかし、このバルブは通常とは逆の時計回りで開となる構造だったため、増し締めではなく開操作することになり、水もれを拡げてしまいました。

【ヒューマンファクターの視点から】

人は習慣や経験から、その場の状況に都合のよい解釈をしてしまい、都合の悪い情報を軽んじる傾向があります。これを「確認バイアス」と言います。しかし、自分自身を主観的に納得させることはできますが、状況の妥当な解釈である保証はありません。

ここでは、過去の経験から時計回りにバルブを操作すれば「水もれを止められる」と思い込んでいました。

過去の経験だけを信じて、状況の正確な把握ができなかった（確認バイアス）ため、トラブルを拡大させてしまったのです。

普段皆さんが考えている「あれと同じでいいはずだ」「あそこではこうやったから」などは、まさに「確認バイアス」の典型例です。このような思い込みをしていると、エラーにつながる可能性があります。

常に問いかける姿勢、初めて当たる作業という気持ちで作業に臨み、思い込みにとらわれないよう注意することが肝心です。